

＜マスゲーム＞ハナミズキとアジサイの花の咲く合間に目を惹くのはヤマボウシの花でしょうか。遠目にも白い花が目立ちます。近寄って見ると白い布を纏った小人たちがマスゲームをしているように見えます。ヤマボウシの名は白い裹頭（かとう：頭を包む布）を付けた“山法師”の姿を想うかべて付けられたものですが、そんな荒々しさは微塵もありません。花の真ん中の緑の部分は秋には赤褐色に色付き甘い実となります。



（山法師）平安の末期から大寺院では堂衆（寺院の雑役夫）を自衛のため武装させました。京都延暦寺の僧兵が“山法師”そして奈良興福寺の僧兵が“奈良法師”と呼ばれました。白河法皇は世でままならない三つのこと“三不如意”としてすごろくの賽（さい）の目、賀茂川の水、そして山法師を挙げました。



＜白い花は他にも＞SHC には数本のハリエンジュ（ニセアカシア）が植わっていて、あたり一面に白い花びらを落とし良い匂いをふり撒いています。高い梢を見上げると青空をバックにした花の白が映えます。一方、雑木林の明るいところではノイバラが白い花を沢山付けています。

＜上：ヤマボウシ＞＜下：ハリエンジュ＞

＜ピンク、赤そして青＞雑木林の脇やビオトープには丈の低いタニウツギやヤブウツギがピンクや赤の鮮やかな花を咲かせていて目を惹きます。道端には殆ど気にも留められないハルジオンが今を盛りと花を咲かせています。



＜タニウツギ＞



＜ハルジオン＞

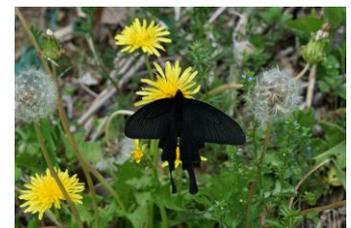


＜タツナミソウ＞

俗に“貧乏草”と言われますがよく見ると可愛い花です。一方、この時期に“今春も咲いてくれたか”と嬉しくなるのがタツナミソウで色鮮やかな青紫の花を穂状に付けています。花の様子が“波がしらのように見える”ことから“立浪”となったとのことです。確かに口唇形の花が群落ごと一斉にある方向を向いていて花の色と相まって“浪”を感じさせます。

＜はや夏の気配＞5月中旬は“立夏”

にあたり昆虫たちの動きが活発です。冬を蛹で越したクロアゲハやアオスジアゲハが盛んに蜜を吸い、卵を産み付ける木を探しているようです。また冬を越したクマバチ（キムネクマバチ）は大好きなハリエンジュやグミの花の周りで羽音を立てて



＜クロアゲハ＞

飛び交っています。丸まるとした体と太い脚に比べて小さな羽根をしています。これでよく空を飛べますね。“なせばなる”でしょうか。それにしても不思議です。

＜キムネクマバチの一休み＞

うか。それにしても不思議です。

（文と写真：松本正勝）